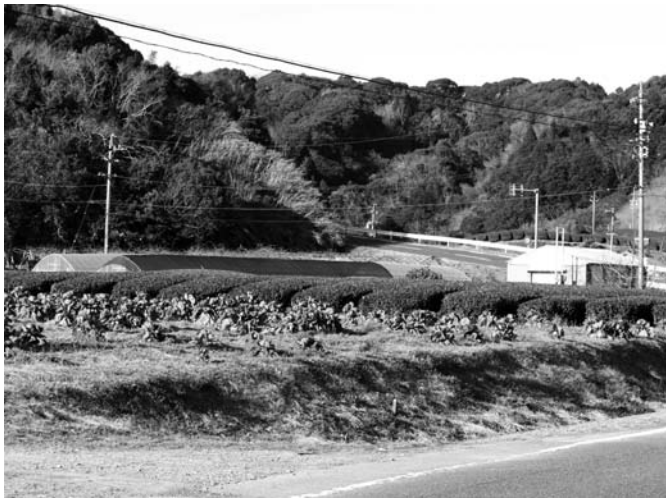
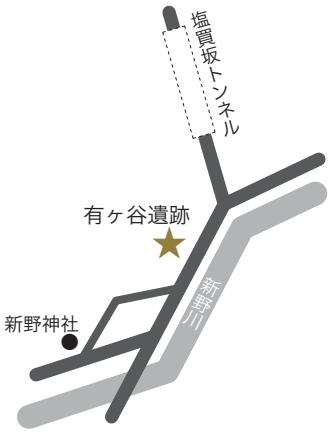
▼有ヶ谷遺跡の現在の状況



▲古墳時代の土師器

▲古墳時代の須恵器



埋蔵文化財包蔵地　**有ヶ谷遺跡**

History

キラリを再発見

市内最北の低地集落跡

1970（昭和45）年８月16日に、新野地区の有ヶ谷集落周辺の標高34㍍程の水田の下から、古墳時代の土師器（はじき）や須恵器（すえき）と呼ばれる土器が出土したことから、有ヶ谷遺跡として登録されました。

土師器と須恵器の違いですが、土師器は粘土紐を底から口に向かって積み上げて作っているのに対して、須恵器は、ろくろを使って回転によって生じる遠心力を利用して、土器の形を引き出しています。

土師器は野焼きで枯れ草や薪を使って焼いているので、酸化して褐色に焼けるのに対して、須恵器は窯で焼いており、高温で酸素が少ない状態のため青灰色になります。

有ヶ谷遺跡からは、市内で古墳が造られた時代にあたる５世紀後半から６世紀前半頃の土師器と須恵器が水田の地下等から出土していることから古墳時代の低地集落跡と考えられます。

Atomic

暮らしと原子力

発電所の津波対策工事

中部電力では、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故等から、これまでに得られた知見を反映し、浜岡原子力発電所における津波対策を実施しています。津波対策工事のうち、「敷地内への浸水防止対策」として実施する『防波壁設置工事』は、昨年９月から本体準備工事に着手し、基礎部の掘削・鉄筋建て込み・コンクリート打設作業を進めてきましたが、この作業が完了した箇所から順次、壁部を構成する「床版」の設置作業を開始し、４月19日からは、「たて壁」の設置工事が進められています。

※浜岡原子力発電所の津波対策工事の進捗状況は、御前崎ケーブルテレビ１２２チャンネルでご覧いただけます。

▲たて壁の設置状況（４月25日撮影）